

(一般教養科)

(区 分 A)

野口 裕子

『草枕』冒頭はどこから来たのか

野口裕子

新居浜工業高等専門学校一般教養科

解釈、七・八月号 特集近代 pp.9-13、(2004.8)

『草枕』という小説を思い浮かべたとき、その作品名と同時に思うのは、次の冒頭部分である。

「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい。」

この冒頭の素材については特に論じられることはなく、漱石の文章として存在してきた。この部分が人口に膾炙していると云うことは異論の余地無く、まさに名文句として定着している。漢文学に通じていた漱石なら、このような文言を惟たとしても不思議ではないことから、今まで、漱石が作ったものとして問題にされなかった。が、この冒頭は本当に漱石の創作なのであろうか。

偶然、仙台近郊で見出した「貞山公遺訓」（五常訓）という文章が、この冒頭に酷似していることから、素材としての可能性を論じた。夏目漱石自身、明治27年に仙台近郊の松島を訪れている。現地調査をも踏まえ、この資料には無視することのできない類似があると結論したものである。（本稿は2003年日本近代文学会関西支部秋季大会の口頭発表をもとに加筆訂正したものである）

塚野 修

寮生と通学生との学業成績、授業出席、自宅学習に関する比較および寮生の学業成績推移

塚野 修

新居浜工業高等専門学校一般教養科

論文集高専教育、第28号、pp655-660、(2005.3)

平成14年度の成績、平成13年度の勉学アンケート、平成14年度の寮生アンケート、平成15年度の新入生学力確認試験、平成15年度前期中間試験成績を用いての、平成11年度入学の寮生の学業成績推移、平成14年度の寮生と通学生との学業と欠課に関する比較から、1～3年生においては、寮生の方が通学生よりも学業成績、自宅学習時間、授業出席において勝っていることが判明した。しかしながら、4年生以上になると、通学生の方が勝っているという残念な結果が得られた。

野村 真理子

The Development of Productive Vocabulary by Japanese Learners of English .An Analysis of vocabulary in Speech Manuscripts

野村真理子

新居浜工業高等専門学校一般教養科

Annual Review of English Language Education in Japan , vol.16 , pp151-160 , (2005.3)

The present study aims to investigate the tendencies in productive use of vocabulary from the records of written output by Japanese learners of English at an upper secondary level. The first step to cultivate learners who can use English productively is to understand the use of productive vocabulary and its development in learners' existent records of spoken or written output for a long period. However , little is known as to the development of productive vocabulary. This study attempts to examine vocabulary in speech manuscripts written by senior high

school students and show the tendencies in their productive use. 114 speeches written by 38 students over three years were analyzed in perspective of lexical richness by making use of a computer program called 沢 7zge. The results were shown as to the type-token ratio, the ratio in percentage between the different words in the text and the total number of running words, and the proportion of high frequency and academic words used in the text. As a result, some features in vocabulary use were found out.

木本 伸

海への逃走 - 1997年の2本の映画、BanditsとKnockin' on heaven's door

木本 伸

新居浜工業高等専門学校一般教養科

ドイツ文学論集（日本独文学会中国四国支部編）、第37号、pp14-23、（2004.10）

本論は2本のドイツ映画BanditsとKnockin' on heauen's doorを同時期のドイツの社会現象と関連させて読み解いた論考である。

木本 伸

ドイツ語の授業で音楽を使う

木本 伸

新居浜工業高等専門学校一般教養科

論文集『高専教育』、第28号、pp131-136、（2005.3）

本論はドイツ語の授業を活性化するために、現代ドイツのポピュラー音楽を教材として取り入れる方法や可能性を考察した論考である。

(区 分 B)

野田 善弘

伊予の陶淵明 近藤篤山

加藤国安¹、野田善弘²

¹愛媛大学教育学部、²新居浜工業高等専門学校一般教養科

研文出版、（2004.11）

本書は、伊予聖人と景仰された小松藩儒近藤篤山の漢詩文集（『篤山遺稿』など）を抄記したものである。加藤氏が詩集を、野田が文集を担当した。

近藤篤山は謹直厳格な朱子学者として今までとらえられてきたが、その漢詩文には澆刺としたユーモアあふれる人となりや、息子・弟子に対する深い情愛が表れている。本書によって、近藤篤山のイメージは一新されるであろう。

(区 分 C)

鴻上 政明

英語の諺に関する一研究(4)

鴻上政明¹

¹新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第41巻、pp69 -77, (2005)

英語の諺を構成面で分類した。否定表現は103例、その中で日英共に否定表現は80例、否定一平叙は22

例、否定一命令は1例である。命令構文は54例、そのうち日英共に命令は37例、命令一平叙は17例である。平叙一否定は27例である。省略は24例で、そのうち省略一平叙は19例、省略一否定は1例である。

1. 否定一否定

Constant guest is never welcome. いつも来る客は歓迎されない。

2. 否定一平叙

Desert and reward seldom keep company. 功績と褒賞はともなうこと少なし。

3. 否定一命令

All work and no play makes Jack a dull boy. よく学び、よく遊べ。

4. 命令一命令

Agree for the law is costly. 折り合いなさい、訴訟は金がかかるから。

5. 命令一平叙

Fling dirt enough and some will stick. たとえうそでも沢山広めれば、多少は信じられる。

6. 平叙一否定

A creaking gate hangs long. ぎしぎしする門扉もなかなかはずれない。

7. 省略一平叙

A great city, a great solitude. 大きい町ほど人は孤独だ。

8. 省略一否定

Any port in a storm. 嵐の時には港を選ばぬ。

9. 省略一命令

Make haste, less speed. 急がば回れ。

塚野 修

寮生と通学生との学業に関する比較および寮生の学業推移

塚野 修

新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要、第41巻、pp7-16、(2005.1)

平成14年度の成績、平成13年度の勉学アンケート、平成14年度の寮生アンケート、平成15年度の新入生学力確認試験、平成15年度前期中間試験成績を用いての、平成11年度と12年度入学の寮生の学業成績推移、平成13年度の寮生と通学生との自宅学習時間の比較、平成14年度と15年度の学業成績での寮生と通学生との比較、平成14年度と15年度の欠課に関する寮生と通学生との比較から、1～3年生においては、寮生の方が通学生よりも学業成績、自宅学習時間、授業出席において勝っているが、4年生以上になると、通学生の方が勝っているという結果が得られた。なお、本論文は、論文集「高専教育」、第28号(pp655-660、(2005.3))の拙論「寮生と通学生との学業成績、授業出席、自宅学習に関する比較および寮生の学業成績推移」に、新たなデータを用いて、加筆したものである。

野田 善弘

民国時代の東南大学について(中)

野田善弘

新居浜工業高等専門学校一般教養科

東洋古典学研究第17集、pp105-134、(2004.5)

本稿は、前稿「民国時代の東南大学について(上)」(東洋古典学研究16、2003.10)の続編である。本稿では、東南大学(南京高等師範学校)の代表的「学報」である『史地学報』と『学術』をとりあげ、そ

の基本的性格について論述した。『史地学報』は、柳詒とその門下生によって結成された史地研究会の機関誌であるが、彼らは当時、北京を中心に流行していた錢玄同や顧旅剛らの「疑古史学」に敢然と対抗し、これによって北方とは異なる伝統主義的学風を有する東南史学が形成された。また、呉必らが発刊した『學術雑誌』は、新文化運動の反伝統主義に対抗し、新旧の融合を説いたが、これについて呉必の『自編年譜』および『日記』を中心にその成立過程を詳説した。このような具体的考察を通して、東南大学の近代思想史上の位置を明確にすることができた。

野田 善弘

中国の心理学について(二)―錢穆『現代中国學術論衡』訳注稿

野田善弘

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第41巻、pp78-88、(2005.1)

本稿は銀棟著『現代中国學術論衡』に収録される「略論中国心理学(二)」を邦訳し、注釈を加えたものである。

銀棟は本文において、細分化された「知」(専門主義)が根本的かつ一般の問題 - たとえば『大学』の「修身(齊家・治國・平天下) - などをおろそかにすることに危機を覚え、これを生み出す根本的要因といえる近代的大学における知識伝授のあり方に対して痛烈な批判を加えている。ひとつの教育論としても興味深い作品である。

Ray Tabesh

The Impact of Text organization on Comprehension of American and Japanese readers

Ray Tabesh

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第41巻、pp.17-26、(2005)

The purpose of this study is to investigate the effect of text organization on reading comprehension and to determine whether Japanese and American reader's comprehension and layout preferences are affected by text structure. This paper also explores the influence of top-level critical organization on reading comprehension followed by text structure awareness and instructional strategies supported by critical analysis.

(区 分 E)

野村 真理子

日本人英語学習者の発表語彙の発達 - スピーチ原稿の語彙分析をとおして

野村真理子

新居浜工業高等専門学校一般教養科

第30回全国英語教育学会長野研究大会、(2004.8)

本発表では、日本人英語学習者38人の3年間にわたるスピーチに関する学習記録(スピーチ原稿)を掘り起こし、語彙使用の実態を語彙の豊かさ及びコロケーションの使用の観点から分析した結果を示し、3年間で発表語彙がどのように発達しているかについて考察した。

木本 伸

科学時代における文学の可能性、ジルヴィオ・ヴィエッタの著作を手がかりとして

木本伸

新居浜工業高等専門学校一般教養科

日本独文学会中国四国支部研究発表会（広島大学）、（2004.11.6）

科学技術に代表される合理的思考が貫徹されていく近代において、文学ないし文学研究は社会的にどのような役割を果たしてきたのか。本発表はジルヴィオ・ヴィエッタおよびリッター、ハーバーマス等の著作を手がかりとして、上記の問題を追及した論考である。

野田 善弘

愛媛の漢文文化と中国—日本の史跡

野田善弘

新居浜工業高等専門学校一般教養科

『伊予の陶淵明 近藤篤山』出版記念シンポジウム—小松藩儒・近藤篤山の田園理想郷—、（2004.11）

『伊予の陶淵明 近藤篤山』の出版を記念して、大学および地域の近藤篤山研究者が集い、愛媛大学において公開シンポジウムを開催した。発表者は、中江藤樹・尾藤二洲・近藤篤山ら愛媛ゆかりの朱子学者・陽明学者の史跡および中国に残る朱子学・陽明学関係史跡をスライドを用いて紹介し、その概要を解説した。